

# 地域福祉に関する調査及び意見交換会等の 結果について

高知市地域共生社会推進課  
高知市社会福祉協議会

## 1. アンケート調査結果の概要【高知市実施】

(高知市内に事業所を設置する社会福祉法人対象調査)

## 2. 聞き取り調査結果の概要 【高知市実施】

(高知市民生委員児童委員協議会連合会対象調査)

## 3. 意見交換会結果の概要 【高知市社会福祉協議会実施】

※「高知市民生委員児童委員協議会連合会対象の意見交換会」は新型コロナウイルス感染症対策のため、「聞き取り調査」に変更となっております。

※「地域で活動する住民等対象の意見交換会」は新型コロナウイルス感染症対策のため、延期となり現時点では「未実施」となっております。

# 1 アンケート調査結果の概要【高知市実施】

目的 第2期地域福祉活動推進計画の推進に向け、地域福祉に関連する社会福祉法人の地域貢献(地域活動)の実態を把握する。

ほおっちょけん相談窓口の周知度や協力意向、高知くらしつなげるネット(以下、「Licoネット」という。)に関する周知度、活用状況について把握する。

調査対象者 高知市内に事業所を設置する社会福祉法人 80法人

調査期間 令和3年5月6日～5月21日

調査方法 郵送にて調査票を送付、回答はFAXで返信

回答者数 57法人(回答率:71%)

## 調査結果

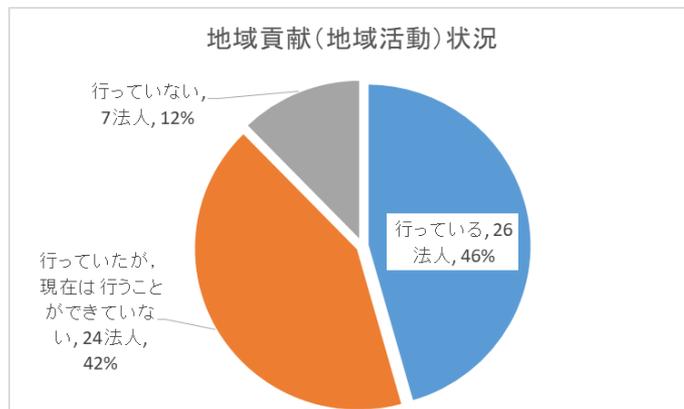
### (1)地域貢献(地域活動)

50法人(88%)が地域貢献を現在、又は過去に行っていると回答しており、そのうち、24法人(42%)は、新型コロナウイルス感染対策の影響等により、現在行うことができないと回答していた。

取組内容は、地域住民を招いた行事の開催や地域主催の行事への参加、地域住民の活動場所としての提供、子育て支援、避難訓練等防災活動への参加、清掃活動、出前講座や相談会、相談窓口の実施などであった。

地域貢献(地域活動)を行う上での課題は、新型コロナウイルス感染状況下での活動自粛、人員(人材)や財源不足、法人(事業所)の広報、地域のニーズ把握とマッチング、利用者と地域の方との交流などであった。

地域貢献(地域活動)における工夫として、3密対策、広報、日々声を聞き、状況を知ることの積み重ねがあげられていた。



### (2)ほおっちょけん相談窓口

43法人(75%)が「ほおっちょけん相談窓口」について知っているとは回答していた。また、「ほおっちょけん相談窓口」に協力したいと回答した法人は27法人であった。

### (3)高知くらしつなげるネット(愛称「Licoネット」)

43法人(75%)が「Licoネット」について知っているとは回答していた。また、活用したことがないと回答した法人が81%であった。

## 2 聞き取り調査結果の概要【高知市実施】

目的 第2期地域福祉活動推進計画(2019～2024年度)の推進に向け、身近な地域で相談を受けている民生委員児童委員の関係機関との連携状況について把握する。

地域における連携活動の中での成果と課題を把握し、地域の多様な主体がつながる(連携・協働)仕組みづくりの検討材料とする。

調査対象者 高知市民生委員児童委員協議会連合会 各地区会長・副会長等 27地区

調査期間 令和3年6月23日～7月28日

調査方法 地域共生社会推進課職員訪問による聞き取り調査

回答状況 27地区(回答率 :100%)

調査結果(1)関係機関との連携状況:

地域に応じた関係機関との連携があり、以下の機関が多くの地区から挙げられていた。

①地域包括支援センター、②高知市社会福祉協議会、③小学校・中学校、④地区社会福祉協議会、⑤地域内連携協議会 等

(2)地域における連携活動の中での成果と課題:

それぞれの地域に応じた成果と課題あり。具体的なものは以下のとおり(抜粋)。

### 【成果】

- ・ネットワークの会ができたことで役員が重なっている様々な会をまとめて一度に実施。
- ・地域のつながり会議で、地域の状況や課題を共有できている。
- ・地区の各団体の事業報告を1冊にまとめて共有している。
- ・小学校の教職員との連携ができている
- ・独居の方に保育園児が作成したカレンダーの毎月配達
- ・敬老会を実行委員会方式での実施による保育園の交代参加
- ・ほおっちょけん学習の小学校での開催
- ・高校や専門学校との連携による学生との交流

【現在連携している組織や団体等と連携を継続していくために実施している工夫等】

- ・日々または、定期的な情報共有の機会の確保(例:小グループに分かれての意見交換)
- ・住民と行政や市社協とのつなぎ役を実施
- ・各団体の取組に民生委員が関わる 等

【課題】

- ・各機関の状況 : 民生委員児童委員の欠員, 町内会の構成メンバーの高齢化, 町内会自体の消滅, 各団体役員  
の重複, 若い住民の参加の少なさ
- ・関連行事等のコロナによる中止: 地域の社会福祉法人の行事や地域の行事の中止による, 交流の減少
- ・活動の情報共有 : 他の地区がどのような活動をしているのか分からない
- ・活動単位 : 他団体は小学校区単位で活動しており, 民児協は行政区であるため, 他の関係機関との連携  
が難しい
- ・マンションの増加 : 住人との接点がなく様子が分からない
- ・ゴミ出し困難者への対応: 不燃物, 生ごみ
- ・孤独死

【高知市関連部署との連携等での課題】

- ・まずは地域を知ってもらいたい。そして具体的な役割分担をしながら, バラバラとやるのではなく横連携が  
必要。
- ・個別ケースの相談の際に, 各部署の庁内連携が十分にできているのかとを感じる場面がある。
- ・福祉課との連携(ケースワーカーとの情報共有)

### 3 意見交換会結果の概要【高知市社会福祉協議会実施】

#### (1) 目的

第2期地域福祉活動推進計画の中間見直しにあたり、地域福祉に関する地域住民及び関連機関等の状況並びに今後の課題を把握する

#### (2) 対象

- ①地区社会福祉協議会
- ②ボランティア活動者：気くばりさん
- ③ボランティア活動者：福祉委員
- ④ボランティア活動者：こうち笑顔マイレージ ボランティア
- ⑤ほおっちょけん学習(福祉学習)サポーター養成講座受講生
- ⑥生活支援ボランティア養成講座受講生
- ⑦有償ボランティア意見交換
- ⑧ほおっちょけんネットワーク会議参加者
- ⑨高知市社会福祉法人連絡協議会会員法人(部会員)
- ⑩地域福祉研修参加者

#### (3) 期間 令和2年10月～令和3年9月

## 2 意見交換会 結果詳細

### ①地区社会福祉協議会

開催日時 令和3年4月22日  
開催場所 高知市保健福祉センター3階大会議室  
方 法 意見交換  
参加者数 12名

- ▷ コロナウィルス感染症の拡大により活動が縮小や中止を余儀なくされたこと、住民の中に広がる不安など、コロナ禍において地域福祉活動にもたらされたマイナスな面と、地域の課題についてみんなで話し合った、感染対策を徹底して活動を継続した等のコロナ禍でもつながりを絶やさないために行われた活動を無理のない範囲内で継続してきた前向きな意見が出された。
- ▷ 今後の活動として、地域のつながりを深める取り組みや多世代交流などの住民同士がつながるきっかけづくりとともに、高知市と市社協、地区社協、民児協、みんなで協力したい等の地域に関わる様々な関係機関との連携に関する意見が出されている。

### ②ボランティア活動者：気くばりさん

期 間 令和2年10月10日～10月31日  
方 法 郵送調査  
回答者数 222名

- ▷ 主な活動としては、高齢者支援の活動(55.1%)、町内会活動(49.0%)、地域の防災に関する活動(33.7%)が上位を占める結果となった。
- ▷ 活動のためには、ボランティア募集や地域活動についての定期的な情報発信と、学習会や養成講座などスキルアップの研修が必要との結果が出ている。気くばりさんの取り消しの理由としては、“高齢・障がい・病気などのため”と“ボランティア活動をする余裕がない”といった活動者に起因する理由が多い。

### ③ボランティア活動者：福祉委員

期 間 令和3年8月25日～9月30日  
方 法 ヒアリング調査  
回答者数 12名

- ▷ 地域活動に積極的に参画をしていた方々が、地区の民生委員や福祉委員などに声をかけられたことがきっかけとなり、福祉委員として活動するようになっていく。
- ▷ 居住地の助け合いができていくと答える方が多く、また全員が“住民が自主的に支え合い、助け合う関係の必要性”を感じている。
- ▷ コロナによる活動の影響があった、もしくは、少なからずあったと全員が答えた。

## 2 意見交換会 結果詳細

### ④ ボランティア活動者：こうち笑顔マイレージ登録ボランティア

期 間 令和3年1月10日～2月19日

方 法 郵送調査

回答者数 132名

- ▷ こうち笑顔マイレージのボランティア登録者を対象に現状調査。当該制度対象のボランティア活動参加の回答は34名、全体の10.6%で、ほとんどの登録者が活動できていない現状。コロナ前のアンケート(H30年度)と比較しても活動は71%減少している。”利用者の話し相手、傾聴等”，”洗濯 物の整理，シーツ交換等”の施設内での活動が大きく減少。回答者の94%がコロナの影響を受けたと答えており，ボランティア活動するにあたって不安や困り事もコロナに関する回答が高い傾向にあった。

### ⑤ ほおっちょけん学習(福祉学習)サポーター養成講座受講生

期 間 令和3年3月24日

方 法 意見交換

参加者数 37名

- ▷ 子どもたちにとって、また、活動する地域の大人にとって、相互につながる機会としての認識があり、学習の継続性や学校との関係づくり、学習後の日常的なつながりにも発展していることが意見として出された。
- ▷ 今後よりよい活動になっていくために、内容の拡充と充実、量的な拡大、活動者や協力者を増やす取組、生涯学習の視点での展開など、ほおっちょけん学習をさらに地域で深め広げることへの前向きな意見が出されている。

### ⑥ 生活支援ボランティア養成講座受講生

開催日時 令和3年3月10日，4月1日，5月28日，6月4日

開催場所 養成講座(三里，江ノ口東，江ノ口西，一宮)

方 法 意見交換

参加者数 24名

- ▷ 気づきさんや以前より地域福祉活動に積極的に参画をしていた方々が受講しており、「自分のためにやっている」、「感謝されるのは嬉しいし、やりがいも感じている」など、ボランティア活動の持つ相互的なかわりを大事にする意見が多く出された。
- ▷ グループや組織での活動を意識する意見も出されており、仲間で分かち合うことで継続できることや、自主的な活動への展開がみられる。
- ▷ 生活支援ボランティアの活動を周知したい意見の地区もあるが、一方で自分たちの出来る範囲で活動したいとの意見もあり、地区によって活動の展開は登録しているボランティアの方達と話し合いながら進めていく必要がある。

## 2 意見交換会 結果詳細

### ⑦有償ボランティア意見交換

開催日時 令和3年4月16日

開催場所 総合あんしんセンター3階 西会議室

方 法 意見交換

参加者数 8名

- ▶ 利用者、活動者の減少が多く、多くの団体で課題として挙がっていた。その解決手段の一つとして有償ボランティア団体同士のネットワーク作りは重要である。ネットワークの中でマッチングできるものがあれば、網目の細かい活動ができるとの意見が出された。
- ▶ 各団体の持つ情報(有償ボランティアの活発な地域とニーズの多い地域)を整理することで、高知市の単位で重点的に取り組む地区が見える化され、またお互いのことを話し合う機会にもなるのではないかと意見が出され、今後も団体間の連携を深めていくことが必要とされた。

### ⑧ほおっちょけんネットワーク会議参加者

開催日時 令和3年5月10日, 8月1日

開催場所 ほおっちょけんネットワーク会議(江ノ口西・一宮)

方 法 意見交換

参加者数 35名

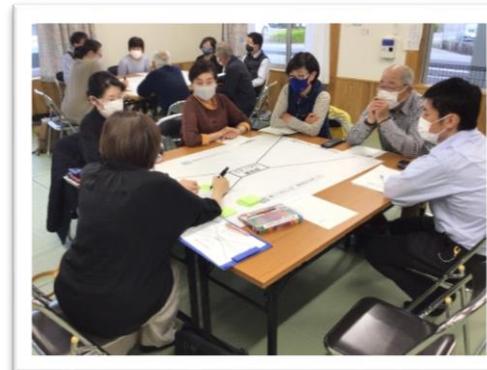
- ▶ ネットワーク会議の場を通じて、様々な人とつながることや、互いのことを知ることができることへの有用性を感じており、日頃、気になる人や気になることについて共有し合う場となっている。
- ▶ スーパーや新聞販売店など普段の生活にある企業の人や福祉の専門職と顔合わせ知り合っていく出会いの場として、また、地域の住民の気になることや誰かに相談したいことができた時に話し合える場として今後もネットワーク会を継続して実施していくことへの意見が出されている。
- ▶ 会議の内容に応じて、地域の多様な主体に呼び掛けていくことを参加者が主体的に働きかけをしており、参加を呼びかけることで連携が深まっていることを感じている。



【ほおっちょけん学習サポーター  
養成講座の様子】



【有償ボランティア意見交換会の様子】



【ほおっちょけんネットワーク会議の様子】

## 2 意見交換会 結果詳細

### ⑨高知市社会福祉法人連絡協議会会員法人

期 間 令和3年8月5日～9月10日

方 法 ヒアリング調査

参加者数 12名

- ▶ 地域における公益的な取り組みの内容は、地域のつながりや地域交流イベント等の地域を活性化する活動、地域生活課題への対応(子ども食堂やほおっちょけん相談窓口)、ボランティアや福祉人材の育成など法人事業に留まらない内容となっており、また地域の団体等と連携して実施していることが分かった。
- ▶ 公益的な活動は複数法人で取り組むことで場所や人手が集まり活動も活発になり色々なことが出来る等の意見があり、複数法人連携によるネットワークを活かした今後の活動への期待も寄せられている

### ⑩地域福祉研修参加者

開催日時 令和2年10月2日

開催場所 秦地区研修

方 法 意見交換

参加人数 24名

- ▶ 既存活動が、町内会同士、住民同士、親同士、子ども同士、様々な属性を持つ人のつながりが生まれていることや、地域の中に行ける場所があるという安心感(継続した運営ができている、ボランティアのやりがい、孤立の解消、住民の生きがいにつながっている)等の意見が出され、自分たちの活動を振り返る機会となった。
- ▶ 今後、よりよい活動になるために、子どもの参加を増やす(親の参加も増える)ための取組の展開、地域住民に関心を持ってもらうために広報体制を強化、ボランティアの発掘・育成など、今の活動に付加していくことへの前向きな意見もあった。



【社会福祉法人連絡協議会部会の様子】



【地域福祉研修の様子】

### 3 地域福祉に関する意見交換会 まとめ

#### 【地域の人材育成及びボランティアに関する活動】

新型コロナの影響により、地域住民による活動が縮小や中止を余儀なくされた。他者との交流を避け、外出を最小限にするなどの自粛期間に住民がとった行動や不安の声があった。

一方、つながりを絶やさない為に、近所の人に声をかけたり、距離を取りながらもできる範囲で訪問したり、電話で話をしたりとつながり続けようとした活動もあり、すべての地域活動が中止されたわけではない。他者を思いやり、自身が社会とのつながりを保ち、無理のない範囲での地域福祉活動は続けたいとの思いは強い。

#### 【地域福祉課題解決に向けた連携・協働】

今までの活動が地域に与えてきたこと、ちょっとした困りごとや相談に応えてきた場の意義、地域の福祉力を高めてきたことなどを、地域住民と共に振り返り、認め合い、次に向かう糧となるような働きかけをすることも、活動再開や継続に向けた支援として必要とされることが分かる。

話し合いの場を通じて、地域の多様な人材や小さな活動があることに気づき、活動に参加することで、日ごろの暮らしの中にちょっとした変化がもたらされていくこと、その楽しみややりがい、自信につながるなどもアンケート調査の意見からもわかる。

社会福祉法人や施設の地域貢献への意識の高まりは、法人の事業に留まらず、地域の高齢者や子育て世代などの支援や地域住民との情報共有の機会を積極的に行うなど、地域を活性化し、地域の福祉力を高めていく働きとなっている。コロナ禍においても、感染対策を取りながら、様々な団体や個人が、出会い、学び合い、共に連携し、課題解決に向けて話し合う場の必要性がわかる。

#### 【活動の維持・継続への支援】

活動の担い手の中には、活動再開を躊躇したり、活動希望はあるが施設の受け入れができなかったり、活動への意欲が下がるなどの意見があった。また他者と互いに活動することへの意見が少なく、“自分のできる範囲で”との意見が多くなっていることから、コロナ禍において以前と意識が変容した可能性がある。地域福祉活動は、元来、地域住民の主体的な活動であるため、無理強いをすることはせず、またボランティア活動そのものが一方通行ではなく相互に学びあう関係性に成り立っている。地域福祉コーディネーターは、地域活動を支援する専門職として、地域活動の団体や担い手、それぞれの話に耳を傾け、不安を解消できるよう情報提供を行い、コロナ過で途切れたつながりの再構築に向けて丁寧なかかわりを必要とすることが分かる。

